

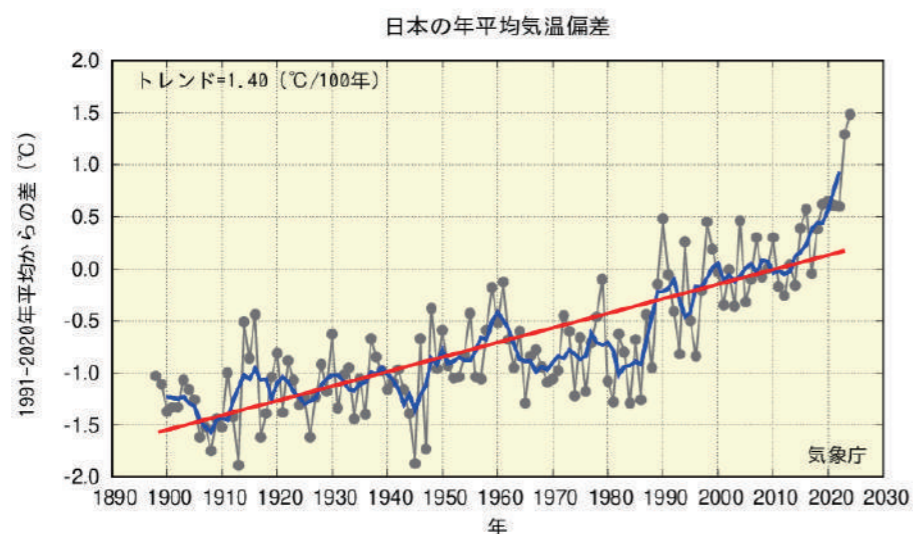


## 春の始まりと気象の変化

春は、冬の寒さが和らぐことから、天気が穏やかになる印象を持たれることがあります。ただ、寒気と暖気がせめぎ合う季節でもあり、もともと天気が変わりやすい時期です。近年はそこに、気温の上下が急になる傾向が加わり、雨の降り方も短時間で強まるなど、「比較的落ち着いた季節」という言葉だけでは表しきれなくなっています。

この冬から春にかけても、季節の進み方の早さを感じさせる出来事が各地で見られました。観測史上最も早く梅が開花した地点があったほか、1月にもかかわらず春のような暖かさとなった日もあり、季節の始まりに驚いた方も多かったのではないのでしょうか。

こうした個々の出来事は、年ごとの天候による側面もあります。ただ、こうした話題が毎年のように取り上げられる背景には、日本の平均気温が長期的に上昇しているという事実があります。気温の上昇は、季節の進み方を早めるだけでなく、天気の現れ方そのものにも影響を及ぼしています。



出典:気象庁 日本の年平均気温の偏差(1890~2024)

## 極端な大雨が増えている

気温が上昇すると、大気中に含むことのできる水蒸気が増えます。そのため、雨雲が発達した際には、短時間に強い雨が降りやすくなります。

こうした傾向は、統計データにもはっきりと表れています。気象庁の気候変動レポート『日本の気候変動2025』によると、短時間に強く降る雨の発生頻度や強度は増加傾向にあり、1976~1985年と比べ、最近の10年間(2015~2024年)では、1時間に80mm以上の「猛烈な雨」が約1.7倍に増加していると示されています。

出典:気象庁 文部科学省・気象庁『日本の気候変動2025 第5章 降水』をもとに図を作成

極端な大雨の変化 (1976~2024)	
要素	変化の倍率 (最初の10年間と最近の10年間の比)
1時間に50mm以上 (非常に激しい雨)	約1.5倍 (約226回~約334回)
1時間に80mm以上 (猛烈な雨)	約1.7倍 (約14回~約24回)
1時間に100mm以上	約1.8倍 (約2.2回~約4.0回)

年間の平均発生回数の比  
(アメダス1300地点に換算した値)

## 「防災気象情報」と避難行動

短時間で状況が急変する大雨が増える中で、「情報は出ていたのに、行動につながらなかった」というケースが課題として指摘されてきました。その背景の一つに、防災気象情報と避難行動の関係が、必ずしも分かりやすく伝わっていなかったことがあります。

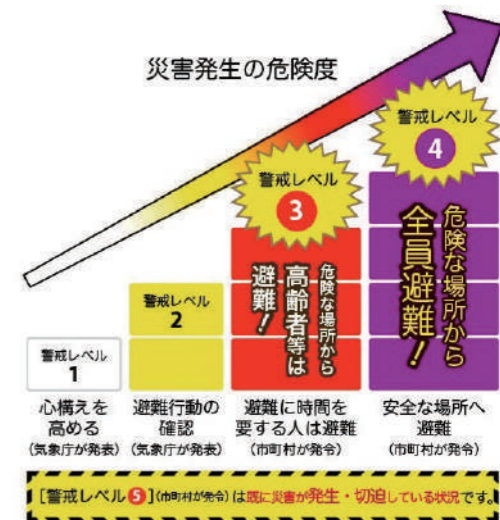
現在、避難行動については「5段階の警戒レベル」で整理されています。警戒レベル3は「高齢者等避難」、警戒レベル4は「避難指示」、警戒レベル5は「緊急安全確保」とされ、数字が上がるほど、より切迫した状況であることを示しています。

一方で、気象庁が発表する注意報や警報は、この警戒レベルと直感的に結び付きにくいという課題がありました。「大雨警報が出ているが、今はどの段階なのか」「避難情報とどう対応して考えればよいのか」と迷いが生じる場面も少なくなかったのが実情です。

こうした課題を踏まえ、気象庁は防災気象情報の体系を見直し、今年の出水期(5月下旬)から新たな運用を開始する予定です。新しい体系では、従来の注意報・警報などの情報の前に警戒レベルを明示することで、受け取った瞬間に「今どの程度の危険に近づいているのか」を数字で把握できるようになります。

例えば、大雨に関する情報では、「レベル3 大雨警報」「レベル4 大雨危険警報」「レベル5 大雨特別警報」といった形で整理される予定です。特に新設される「危険警報」は、警戒レベル4に相当し、避難行動とより直接的に結びつく段階として位置付けられます。

情報の呼び方や仕組みが変わることに、戸惑いを感じる人もいるかもしれません。ただ、基本となるのは、「警戒レベルの数字が高くなるほど、命を守る行動が求められる」という考え方です。



出典:政府広報オンライン

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

出典:気象庁 「新たな防災気象情報について」

## 防災を見直す季節として

日々気象情報を伝える立場として難しいのは、「今はまだ大丈夫そう」に見える段階で、どこまで危険を実感してもらえるかです。そんな中で、防災気象情報の見直しは、行動の判断がしやすくなり、意識も高めやすくなるのではと感じています。改めて、防災を意識するきっかけになればと思います。